

「今後の県立高校に関する地域検討会議」（第1回）の概要

1 実施状況

ブロック名	ブロック内市町村名	実施日時	会場	出席者数（事務局を除く）				
				会議構成員	県議会議員	県立高校長	一般傍聴	報道関係
盛岡①	八幡平市、滝沢市、雫石町、紫波町	平成27年 6月8日（月） 10:00～12:00	盛岡市勤労福祉会館	15	3	5	2	1
盛岡②	盛岡市、葛巻町、岩手町、矢巾町	6月8日（月） 10:00～12:00	盛岡市勤労福祉会館	17	4	11	3	—
岩手中部	花巻市、北上市、西和賀町	5月22日（金） 14:00～16:00	花巻市文化会館	16	2	8	19	2
胆江	奥州市、金ヶ崎町	5月20日（水） 10:00～12:00	奥州市江刺総合支所	12	3	5	5	4
両磐	一関市、平泉町	6月17日（水） 10:00～12:00	一関地区合同庁舎	9	5	6	4	4
気仙	大船渡市、陸前高田市、住田町	5月29日（金） 10:00～12:00	大船渡地区合同庁舎	15	—	4	7	4
釜石・遠野	遠野市、釜石市、大槌町	6月16日（火） 14:00～16:00	大槌町中央公民館	14	3	5	8	1
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	6月23日（火） 14:00～16:00	シートピアなど	15	1	7	5	1
久慈	久慈市、普代村、野田村、洋野町	5月28日（木） 14:00～16:00	洋野町民文化会館	20	1	5	8	3
二戸	二戸市、軽米町、九戸村、一戸町	6月22日（月） 14:00～16:00	二戸地区合同庁舎	18	2	5	7	2
計				151	24	61	68	22
				326				

2 会議内容

- (1) 「今後の高等学校教育の基本的方向」の概要説明及び地域の高校に関する状況等の説明
- (2) 地域の高校配置等を中心とした意見交換

3 意見等のまとめ

- ・ 地方創生への取組等を行う中で、地域の高校は非常に重要であり、小規模校であっても存続が必要である。
- ・ 少子化の中で生徒を確保するため、地域と連携して魅力ある学校づくりを進めるべきである。
- ・ 多様な生徒への対応や教育内容の充実に向け、県内でも人口減等の状況が異なることも踏まえ、県北沿岸、中山間地域等では、少人数学級を導入すべきである。
- ・ 各地域の状況に応じた特色のある学科を設置すべきである
 その他、市町村との連携・協力の在り方（費用負担への懸念等）、地域や産業界との連携の推進、教育の質の保証へ向けた取組の充実等、様々な意見があった。

「今後の県立高校に関する地域検討会議」（第1回）の主な意見・提言

ブロック	主な意見・提言等
盛岡 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手県は観光振興に力を入れている。ガイド等を養成する学科の検討が必要ではないか。 ・ 地元に着する人材を育成して人口減少に歯止めをかけていくことが必要と感じている。 ・ 地域振興のためにも地域に密着した高校は必要である。 ・ 少子化により高校再編は避けられないだろうが、地元の高校は地域のまちづくりとリンクしていることを考慮し今後の高校再編を進めてほしい。 ・ 雫石高校では特色ある活動を行っているが、必ずしも定員を満たしていない。大人の視点だけではなく生徒が集まらない理由について中学生に意見を聴いてみることも必要ではないか。 ・ 再編を進めるにあたって定員を満たしていない高校だけをターゲットにするのではなく、定員を満たしている盛岡の高校を再編することがあっても良いのではないか。 ・ 中学生はやりたい部活動があり自分の夢を叶えられる学校を選ぶと思う。魅力ある高校にさせていただき、選ばれる高校となるよう努力していただきたい。 ・ きめ細やかな指導をするためにも学級定員の見直しを検討してほしい。 ・ 基本的方向に望ましい学校規模を原則として4～6学級程度とするとあるが、高校はある程度の学校規模は必要と考えているので、この基本を大事にしていきたい。 ・ 統合により通学が困難となることのないよう対策を講じておくことが、今後の再編をスムーズに進めることに繋がる。また、寄宿舎の整備についても検討が必要ではないか。
盛岡 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業界から即戦力としての人材が減ってきているとの声もあることから、地域の人材育成のため農業・工業・商業の専門高校については、大きな再編は好ましくないと感じている。 ・ 教育機会の保障の観点から通学距離や通学時間等、地域実情を考慮した対応をお願いしたい。 ・ 町づくりを考えると地元高校の存在は大きい。中高一貫教育や部活動で高校の特長づくりをしていくことが教育では大切である。 ・ 福祉介護等の分野では人材が不足している。このような技術を身につける特長ある学科が必要ではないか ・ 学校学科の再編では、今まで培ってきた学校の伝統、特色を失うことないように進めていただきたい。 ・ 県外への人材の流出を抑えるため、地元回帰の心と郷土愛を育む教育内容の充実をお願いしたい。 ・ 統合による通学支援に関連して、寮を設置するという考えがあっても良いのではないか。 ・ 生徒のニーズにあった学科を併設して、県外からも受け入れるような体制の整備が必要ではないか。 ・ 高校は義務教育の延長線上にあるので、キャリア教育等を通じ小中学校の教育をしっかり行うことが高校教育の充実にも繋がる。
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花巻南高校の国際科学学系について、海外でも使える外国語を学ぶ（教える）モデル校としての役割が必要ではないか。 ・ 「今後の高等学校教育の基本的方向」の内容については、小規模校への配慮が見られる。 ・ ある程度の規模で、生徒が切磋琢磨できる環境は必要である。しかし、小規模校では切磋琢磨できないと言えるのか。小規模校の成果について幅広く検証する必要があるのではないか。 ・ 食糧不足が叫ばれている中で、農業を職業とする人材を育てる学科が必要と考える。 ・ 教育においては、家庭・地域・学校が三位一体となって一人ひとりの生徒を大切に育てる観点が必要である。学力だけでなく、地域とのふれあいも大切にしながら、特色ある学校を作ることが大切である。

ブロック	主な意見・提言等
岩 手 中 部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地理的条件等から、他地区の高校に通学することは困難であり、大迫高校の存続を要望する。 ・ 基本的方向には、地域の状況を踏まえ、特定の地域における独自の基準等、様々な視点から検討とあるので、十分に地域の意見を聴いて検討してほしい。 ・ 高校再編については、入学者数等の数字で調整するのではなく、人材を育む観点から行ってほしい。また、市町村との連携についても、通学支援等、具体的な協議が必要ではないか。 ・ 市町村は、どんなに規模が小さくならうとも高校を残してほしいとは思っていない。教育の質を維持したうえで存続を求めている。
胆 江	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金ケ崎町は英語教育に力を入れている。地元の高校の魅力づくりのためにも、小中高の連携を図っていきたい。 ・ 農業後継者確保のため胆江ブロック内の農業高校は必要である。 ・ 地域の活性化のためには若者に地元に残ってもらう必要がある。そのためには、地域の産業界との連携がますます重要になってくる。 ・ ブロック外に生徒が転出することのないよう各高校の魅力を高めて行くことが必要ではないか。 ・ 子ども達は地域の高校かどうかより自分の力を生かせる学校を選択すると思うので、魅力ある学校づくりは大切と考える。 ・ 専門高校の学び方の工夫が必要で、専門高校を統合する方法もあるのではないか。 ・ 生徒に社会性を身に付けさせるために、普通科と専門学科を併置して一定の規模を保つ方法もあるのではないか。 ・ 北上市、金ケ崎町は工業・ものづくり産業を振興しているため工業高校は必要である。 ・ ILCの誘致が実現すれば、物理や国際化に対応した語学系の学科の設置が必要となるのではないか。
両 磐	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一関市は宮城県との県境であり、より広域的に物事を考えて進めていかなければならない。 ・ 現実を地域住民に対して理解していただくために県教委には努力してほしいし、地域住民もただ単に情緒的に反対するのではなく、現実をしっかり受け止めなければいけない。 ・ 高校はその地域のシンボルであり、その学校の特色を生かし、できるだけ存続させるようにしてほしい。 ・ 普通科からの大学進学だけでなく、専門高校等からの色々な形での大学進学についても考えていかなければならない。 ・ ILCの誘致を目指しているため、国際化に対応できる特色ある学科の設置を望む。 ・ 世界レベルに対応するため、進学クラスでの少人数制による少数精鋭の学力向上も必要ではないか。 ・ 社会の流れを受け止めるために中学校教育、高校教育の一貫した教育改革が今後、求められるのではないか。 ・ 不登校や学力不足の生徒への対応も高校再編では考えてほしい。 ・ 小規模校は地域密着型であり、将来地域に定着できる、あるいは離れても将来地域を応援できる人材育成に有利である。 ・ 普通科、専門学科、総合学科それぞれ特色を生かしながら子どもたちが選択できる幅を狭めることのないようにしてほしい。 ・ 地域に残りたいという子ども達は最近増えているが受け皿がない。どのような自治体を目指しているのかを見据えた学校、学科の配置が必要ではないか。
気 仙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少が続くことで生産年齢人口も減り、非効率な社会になる、生徒も減となるが、地域の様々な意見を聞いて再編計画を進めてほしい。 ・ 人口減少社会は悩ましい問題だが、(高校再編は)あくまでも教育の問題であり、生徒のことを第一に考え、市町村教委、県教委も連携しながら検討を進めてほしい。 ・ 気仙地区は普通高校や様々な専門学科があり比較的バランスがとれている。また、高

ブロック	主な意見・提言等
気 仙	<p>校は実質的に義務教育となっており、再編統合で通学できない生徒が生じないよう、教育の機会均等も考慮すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の農業の担い手確保のため、第一次産業に関する学科は残してほしい。 ・ 統合により、より一層少子化に拍車がかからないように地域づくりのことを考え高校再編を進めてほしい。 ・ 復興・まちづくりの面では、中高生が地域に無くてはならない存在であり、生徒の希望がかなえられる学校・学科の配置は必要である。 ・ 教育の機会の保障等の観点から、今後、小規模校が主流になることも考えられ、具体的な小規模校の在り方を示すべきではないか。 ・ 地元へ貢献したいという生徒が増えているので、地元企業と連携しキャリア教育の充実を図っていただきたい。 ・ 高田高の海洋システム科の入学者が少ない状況であり、漁業、水産加工の2コースを設置する等の工夫も必要である。 ・ 大船渡東高について、少子化の中、総合的な専門高校としての体裁をどのように維持していくのが課題であり、学級定員を少なくすることやコース制、社会のニーズあった学科の設置、見直し等の検討も必要ではないか。 ・ 統合により学校の選択肢が少なくなると、他ブロックに流出する可能性が大きくなる。転入の多いブロックと少ないブロックの学級定員を変える等の検討が必要ではないか。 ・ 気仙地区に特別支援高等部、定時制を含め生徒のニーズにあった学校・学科の配置を検討していただきたい。
釜石・遠野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釜石市では、地場産業の新たな事業展開の可能性の追求、ものづくりを支える人材の育成が課題であり、専攻科の設置を検討していただきたい。 ・ 復興のためのまちづくりを進めている中で、高校再編に向けた基本的方向が示されたが、時期尚早の感がある。 ・ 地域検討会議の進め方について、お互いが情報や課題を共有できるような会議となるように工夫が必要。 ・ 単独校としての存続が難しいのであれば、高校の集中化・拠点化、あるいは連携の交流ネットワークをどのように構築するか、そこに知恵を出すことになるのではないか ・ 釜石地区には水産学科がない中で、地元の魅力を教えるような学科の設置、普通教科でも地元の魅力を感じさせるような教科の設定が必要ではないか。 ・ 生徒数が減少していることは、地域としても理解していかなければならないが、将来ある子ども達にお金をかけてほしい。 ・ 経営者として必要な企画力、デザイン力、技術を備えた人材を育てるための教育環境の整備、教員、学科の配置を行ってほしい。 ・ 釜石・遠野ブロックから他のブロックへの流出が多い状況への対策が必要である。 ・ 人格の形成が教育の狙いであり、そのための高校編制はどうあるべきかという観点での検討が必要である ・ 大槌町では小中一貫教育がスタートし、今後は高校も含めた連携を考えており、高校なくして、まちづくりは考えられない。基本的方向にあるように、小規模校なりの特色を生かすためにも地域の課題を共有していただきたい。 ・ 遠野市では、市内の校長とも協議を行い、現体制の中で可能な取組み等を意見交換している。中高それぞれの授業参観の機会を設定する所から、様々な課題について協議を進めていきたい。 ・ 生徒が減少し、自分のやりたいことが出来ない状況が高校に波及した時、中学校を卒業する生徒が、そうした高校に進学したいと考えるだろうか。
宮 古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田高校に特長のある学科があれば、魅力ある学校に脱皮できるのではないかと感じている。 ・ 教育機会の保障の観点から都市部であろうが、ハンディのある地域であろうが、同等に対応していくことが必要である。 ・ 高校までは地域で学び郷土愛を育てる教育をして、いずれは地域に戻れるような環境

ブロック	主な意見・提言等
宮古	<p>をつくっていくことが大切であると感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災地はまだ復興途中であり、定住も確定していない中で再編を進めるとなると、地域住民の不安をかき立てることになる。 宮古地区の高校は普通高校、工業、商業、水産高校がありバランスがとれている。これから高校に進学する中学生に不安を持たせない意味においても現在の高校を残していただきたい。 例えば、宮古高校に特別進学コース等を設置し、他の地域の高校に進学しなくても宮古高校から難関大学等に進学できるような学科等を整備することも必要ではないか。 今後の生徒減少を考慮すると特に専門高校については、ある程度の学校規模を維持するため、統合することも含めて検討していくことも必要である。 今後、統合を進めていく場合、通学に対する支援策等、地域が納得するような具体的な案を示しながら高校再編の検討を進めることが必要である。
久慈	<ul style="list-style-type: none"> 県央から遠い地域にある久慈地区において、高校教育の質が担保されることは重要であると考えている。 種市高校の海洋開発科に専攻科を設置する等、全国から生徒が集まる方法を考えていただきたい。 「今後の高等学校教育の基本的方向」では、小規模校への配慮、定員についても様々な視点で検討することを明記していることに感謝している。この内容が高校再編計画に生かされていくことを期待したい。 中小企業は人手不足で困っている。専門高校でこれまで以上に生徒のスキルアップが図れるような学科を設置することも必要ではないか。 高校生が地域にいとなくなると、地域活性化のブレーキになってしまう。地域の意見を聴き、現在設置されている高校を存続させる方向で考えてほしい。 子どもの数が少ないから統合しようではなく、地域での高校の意義を考えていかないと偏った高校再編になるのではないかと。そういうことを含め検討いただきたい。
二戸	<ul style="list-style-type: none"> 新たな学科として、福岡工業高校に食品関連学科の新設をお願いしたい。福岡工業高校には、地域産業の発展やそれを支える即戦力の人材を育成し、地元定着に結びつけてくれることを期待している。二戸地域では、農林水産物を加工する食産業が主産業となっている。高校卒業後に、受け皿となる地元企業に就職できるようになれば、県外に転出しないで済むのではないかと。 青森県との隣接協定について、一戸町はその対象となっていない。青森県側の対象地域では、高校の統廃合により高校がなくなっていることから、総合学科のもつ魅力で、県外から生徒を迎えるチャンスである。県外から生徒が入学できるようにすることを考えてはどうか。 軽米高校は平成 25 年度に 1 学年 3 学級から 2 学級となり、教員も減り部活動にも支障をきたしている。学級減に関しては、1 学級定員を見直す等の手立てをしながら、できるだけ避けていただきたい。 高校への進学率が 100% 近い中で、どの地域でも均しく高校で学ぶ機会を与えるという意味では、1 学級定員の見直しも検討しながら、町村に 1 校は高校を存続させるようお願いしたい。 現在、二戸地区では二戸市のみたけ支援学校分教室に 30 人、一戸町の奥中山校に 20 人の児童生徒が在籍しているが、今後ますます増えると予測している。特別支援学校の独立校がないのは二戸地区だけであり、配慮をお願いしたい。 1 学級定員について、基本的方向に示す特定地域が、まさしく特定にならないように年度ごとの状況を踏まえた考え方を進めていただきたい。